

「日米共同訓練へのオスプレイ参加に反対する緊急街頭演説会」を開催

連合北海道は、8月17日、札幌国際ビル前において、オーストラリア沖での墜落事故を受け米軍に飛行自粛を要請していたオスプレイの日米共同訓練参加について、日本政府が容認したことから、これに反対する緊急街頭演説会を150名の参加のもと開催した。

主催者挨拶にたった連合北海道出村良平会長は、「安全や事故原因がはっきりしないまま一方的に安全宣言を行って、共同訓練にオスプレイが参加することは決して認めることはできない。」とし、「政府は改めて態度を変更し、このオスプレイの事故原因の追求、そして安全性の確認について真剣に米軍に向き合うべき。」と政府の対応を厳しく批判。「道民の命と安全を守るため、改めてオスプレイの飛行は許さない、そんな声をみんなで上げていこう。」と訴えた。



続いて、民進党北海道市橋修治幹事長が、「政府のオスプレイの飛行容認に呼応するかのよう、道民の代表である高橋知事が、国が安全をしっかりと保障してもらいたいという要望をつけて容認した。北海道民の安心・安全を守るのに国にお願いしますだけで済むのか。こうした高橋知事の姿勢というのは極めて問題がある。」と高橋道政を批判。北海道平和運動フォーラム佐藤環樹事務局長も「せめて高橋知事は自粛の要請、飛行ルートの開示、夜間飛行の反対を訴えるべき。日本政府、北海道知事が全くあてにならない今、頼りにするのは民衆の声だ。あきらめず反対の声を上げ続けよう。」と参加者に呼びかけた。

最後に連合石狩地協太田聡会長が「市民の安全・安心を脅かす恐れのあるオスプレイ訓練参加強行に対し、改めて反対の意思を明確に表し、重ねて日米共同訓練の規模縮小を求め、この後も引き続き取り組みを進めていこう。」と街宣をしめくくった。